

令和2年度 学校自己評価表

鳥取県立境港総合技術高等学校

中長期ビジョン (学校ビジョン)	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する				今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立	3 キャリア教育の推進	5 業務改善の取組
						2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信	
年度当初						最終評価（2月）		
評価項目	具体的項目	現状	具体的目標	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■頭髮服装指導は、昨年度と比較し再指導者生徒数が約8%減少した ■遅刻生徒数は、昨年度でと比較し約4%増加 ■問題行動は、減少傾向にあり、多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っている	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組む ■頭髮服装再指導者を昨年度より10%減少する ■遅刻総数を昨年度より10%減少する ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■遅刻をなくす取り組みをクラスごとに推進する ■適切な指導を繰り返し、主体的に考えさせ、規範意識の向上を図る ■問題行動には、保護者や関係機関との連携を密にし、粘り強い指導を行う ■教職員が時間厳守、服装等の模範を示し、生徒の意識向上を図る	■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髮服装違反の減少に努めた ■昨年度と比較して遅刻者が15%減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある	B	■時間厳守や頭髮服装については、進路指導にもつながるので、関係分掌と連携し、日頃から教職員全員で粘り強く指導する ■始業時、終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる	
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■分掌と学年が連携し生徒理解に努めきめ細かな指導を行っている ■朝読実態調査の達成率は95.0%で、全体的に落ち着いて取り組んでいる ■人権意識調査、いじめ実態調査アンケート、ハイパーQUなどを行い生徒の実態把握に努めている ■人権講演会等で人権意識や差別解消、人間関係づくりについて理解を深めた	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■ホームルーム活動等を通して、円滑な友人関係を育成する ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う	■生徒情報の共有を図り、素早い情報収集ときめ細かな対応で連携し指導にあたる。必要に応じて外部機関との連携を行う ■生徒観察やハイパーQU結果の検証などを通して、適切な指導を行う ■日常の朝読指導や図書委員による読書推進活動を充実する ■各自の良さや特性を理解し合える学級づくりを推進する	■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めた ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が前年より減少し、落ち着いて読書に取り組みていない生徒が増えた ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行った	B	■生徒情報を共有し、連携を密にし、学習や生活態度を改善させるため、面談等を行うなど迅速に指導を行う ■ハイパーQUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める ■人権意識と共通意識を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権の尊重に関する指導に取り組む	
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレの活用で、学習の習慣化を図った。計算速度の向上や基本的な英文法の理解を深めるなどの効果があった。 ■基礎力診断テストの結果を共有会で分析した。生徒面談や保護者懇談会で、学習指導や進路選択に活かしている。 ■夏季休業中の進学学習会により進学指導の充実を図った。SPIの補習により、傾向と対策の演習を実施した。 ■ICTやアクティブ・ラーニングを活用した授業や観点別評価は十分定着していない。	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進する ■課題やレポートの提出を通して、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を増やし、授業力の向上を図る	■マナトレや基礎力診断テストの結果を分析し、指導に活かす ■生徒による授業評価アンケート結果を分析し、授業改善に取り組む ■習熟度別の指導や、進度別の個別指導により生徒の学習能力を引き出す ■教職員のアクティブ・ラーニング研修やICT活用研修を推進する	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■「G Suite For Education」を導入し、臨時休業及び分散登校時に活用した。また、授業公開、研修を通じて授業への活用方法を検討した ■生徒用に「スタディサプリ」、教職員用に「Find! アクティブラーナー」を導入した	B	■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努める ■「G Suite For Education」の授業への活用方法について検討する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする	
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■専門人材育成につながる資格試験の意義や重要性を理解させると共に、補習や個別指導を各科で実施している。 ■より高度な資格にチャレンジできるよう、1学年から意欲の向上を図っている。 ■総合技術フェアでは、各科が連携して特色のある事業に取り組むことができた。来場者は雨天の関係で昨年度から10%減少した。	■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する ■各科の連携を密にし、総合技術フェア、課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す。 ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる。 ■各科の専門性を効果的に融合し、幅広い対応ができる人材の育成を図る。	■3級海技士(航海)2名、(機関)1名が筆記試験合格、4級海技士(航海)4名、(機関)1名筆記試験合格、1級小型船舶操縦士26名受験し全員合格 ■自動車整備士登録試験、11名全員合格 ■第1種電気工事士3名合格、第2種電気工事士20名合格 ■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている	A	■今後も、生徒が主体的に学習するために、継続的・積極的に補習や試験対策等に取り組んでいく	
3 キャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■インターンシップや進路LHR等で進路意識の向上を図っている。 ■全教職員による3年生への面接指導を実施した。 ■就職のミスマッチを防ぐため、応募前職場見学会の指導を徹底した。 ■今春就職した卒業生に対し、定着指導を行った。 ■新型コロナウイルス感染症予防のため、進路意識の向上につながる「キャリア塾」が実施できなかった。	■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する	■キャリアパスポートに記録させ、それを活用し対話的に関わり、キャリア形成に努める ■キャリア教育全体計画に則り、3年間を見据えた取組の充実を図る ■インターンシップ企業アンケート結果を分析し、企業の求める人材を把握・分析し、進路指導に活かす ■1、2年生には早い段階で、進路意識の向上を図る取組を行う	■キャリアパスポートでは、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができた ■コロナ禍ではあったが、海洋科、機械科は時期をずらして、福祉科は予定どおりインターンシップを実施した ■実習施設との連携を密にし、実習前後の指導を徹底するとともに、実習のねらいや課題が明確にできるように生徒自身に考えさせた ■専門的な就職先に、86.2%内定した ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した	B	■生徒の体験・経験を増やすための授業保障を行う ■進路について、将来を見据えた指導を今後も継続する ■コロナ禍に対応したりモートによる職場見学や研修を企画する	
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■土曜授業等実施事業をはじめ、地域交流活動、各種ボランティア活動に多数参加し、地域貢献・地域連携を積極的に行っている。 ■生徒会を中心として、余子駅などの清掃活動を実施した。 ■近隣のあまりに育園、福定町自治会と連携し、合同で避難訓練(地震・津波)を実施した。	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ、役立ち感、有用感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める	■学校独自事業や土曜授業等実施事業の精選と内容の充実を図り、地域貢献・地域連携活動に積極的に取り組む ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■コロナ禍で、土曜授業等の事業がほとんど実施できなかった。しかし、新巻鮭販売は、感染予防対策実施参照ガイドライン(鳥取県版イベントガイドライン)に則り、安全安心の販売活動を実施した ■学校独自事業については、鳥取県立学校版感染症予防ガイドラインに則り、感染予防対策を検討し実施したが、一部の事業で実施できないものもあった	B	■コロナ禍を踏まえ、感染予防対策を検討し、地域に出かける活動など地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う	
	学校教育活動の情報発信	■特色ある活動を積極的にマスコミへ資料提供を行い、テレビ報道や新聞掲載につながった。 ■新着情報のホームページ掲載頻度が科ごとに開きがある。	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページによる情報発信の充実を図る	■マスコミへの情報提供を迅速に行う ■各科、学年、分掌、部活動等が積極的にホームページを更新するよう努める	■実習や行事等、マスコミへの情報提供を迅速に行っている ■各科、学年、分掌等の実習や行事等を開催ごとにホームページに掲載し更新した	B	■引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める	
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	■1時間以内に終わる会議が増えてきた。 ■科会の時間を削減するなどの改善を行う部署もあった。	■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は1時間以内に終了する	■事前に会議・委員会の協議内容を調整・精選する ■会議等時間の縮減に努め、業務の効率化を図る	■コロナ禍の影響はあったが、職員間の情報交換を密にし、会議の時間が短縮できた	B	■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる	
	長時間勤務者の解消	■部活動未経験者の顧問が多い部活動は、業務分担が難しい。 ■学校行事や資格取得指導、部活動の大会など、業務が集中し、時間外業務の削減が難しい時期がある。	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とするように、年間活動計画及び毎月の活動計画を提出し、管理指導する	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている	B	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う。 ■目標時間を越える可能性のある場合は、事前に管理、指導する	